

演奏に  
役立つ

# One Point Lesson

# CONTRABASS

コントラバス

小金丸章斗 こがまる・あきと



- ◆出身 福岡第一高校、東京音楽大学
- ◆所属 名古屋フィルハーモニー交響楽団
- ◆趣味 散歩、ドライブ
- ◆血液型 A型
- ◆星座 かに座
- ◆読者にひとこと 石の上にも三年。今日は昨日よりうまくなる!
- ◆手紙の送り先 akitokoganemaru@hotmail.co.jp、BJ 気付

## コントラバスの魅力、それはピチカート(その1)

みなさんはコントラバスのどこに魅力を感じますか? バンド全体を包み込む深い響き、ハイポジションのきれいな音色、または「吹奏楽の中で唯一の弦楽器だから」とか「とにかく大きいから、なんとなくかっこいい!」なんていう人もいるかもしれませんね。

魅力はたくさんありますが、その中でも弦を指ではじく「ピチカート」にひかれる人は多いのではないのでしょうか? 合奏でピチカートが出てくると、他の楽器にはまねできない発音と響きが気持ちいいですよ。このピチカートは、吹奏楽やオーケストラはもちろん、ジャズやポップスなど幅広いジャンルで大活躍しています。というわけで、今月のレッスンは「豊かな表情のピチカート」です。

### ■ピチカートの表情って?

ピチカートって、ただ指で弦をポンポンはじけばいいと思いませんか? 確かに弓でひくよりも簡単に音が出るし、楽器に触ったことのない人が弦をつまんで離すだけでも、それらしい音は出ると思います。

ところが、ちょっとしたテクニックを知っているだけで、いろいろな音色を引き出すことができます。それだけに、なんとなくやっている人と、考えてはじいている人の差がつきやすいところです。みなさんも今日から「考えてピチカートする人」になりましょう!

### ■どの指ではじくか

一般的に、*p*、*pp*のときや、音の響きよりも輪郭を多めに出したいときは、人差し指1本で。また、太くて響きの多い、柔らかい

音を出したいときは人差し指と中指の2本ではじくことが多いです。

吹奏楽の場合、基本的には人差し指と中指の2本を並べてはじくのがよいです。このときに気をつけるのは、決して指に力を入れて固くしないこと! 大きい音を出そうと思うと、つい力が入ってしまう気持ちは分かりますが、力んではじいて、耳元で大きな音がしたようでも、その音は客席には届いていないことが多いです。試しに一度、力を抜いたときと、指先から腕まで力を込めてはじいたときの音をよく聞き比べてください。力いっぱいはいじた音のほうが楽器の振動が少なく、響きが止まっているのが分かりますね?

指と腕の力を抜いて指を柔らかく保ち、楽器の底から振動させる感覚をつかんでください(これは弓でひくときも同じ)。ちなみにピチカートにつきものの「指の水ぶくれ」も、力を抜いてはじいたほうができにくいです!

### ■ピチカートでの弓の持ちかた

前後に長い休みがあるときなどは、椅子に弓を置いて右手を自由にできますが、実際の曲の中では、ほとんどの場合は弓を持ったままピチカートをすることになります。

基本的には小指にフロッシュをかけて([写真1])、小指・薬指と親指の付け根で弓をはさみます([写真2、3])。この方法が弓を最も安定させることができます。

*arco* と *pizz.*の持ち替えの時間が短く、もっと素早くチェンジしたいときは、*arco*での弓の持ちかたのまま、人差し指と中指(ま

たは人差し指だけ)で弦をはじきます([写真4、5])。この持ちかたは、弓がふらふらしたり、楽器にぶつかりそうになったりして、最初は弓を安定させるのが少し難しいかもしれません。ポイントは、

- ①親指と小指でしっかり弓をはさむ
- ②弓の毛を外側に向けるつもりで
- ③弓先を楽器から離す

このようにするとうまくいきます。この持ちかたを覚えておくと便利なので、ぜひマスターしてください。

### ■指のどの部分ではじくか

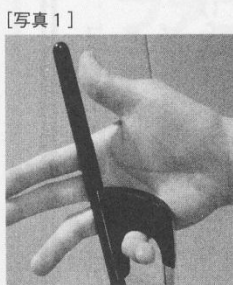
太く柔らかく、芯のある音を出すためには、指の腹の最も肉厚なところで弦をはじきます。ただ、手や指のつくりは人それぞれ違うので、指を弦にひっかける深さや角度をいろいろ試して、自分のベストを探してください。

### ■弦のどこをはじくのか

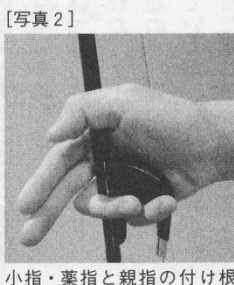
楽器によって、どこをはじくとよく鳴るかは違いますが、楽器の肩の高さくらいのところが、音の芯と響きのバランスがとれた「標準」の場所だと思ってください([写真6])。

指の使い方でも音色は変わりますが、はじく場所でも音色は違います。駒寄りだと固めの重い音になり、駒から離れるほど軽めの優しい音になります。曲の雰囲気に合わせて、どこをはじくかも考えながら演奏してください。

来月も引き続きピチカートです。音色の引き出しを多く持っているほど演奏も楽しくなります。一音のピチカートで合奏の空気を変えられるプレイヤーを目指しましょう!



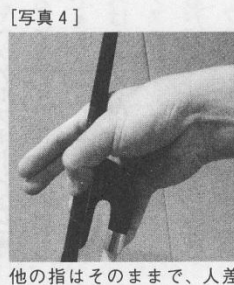
[写真1] 小指にフロッシュをかけて



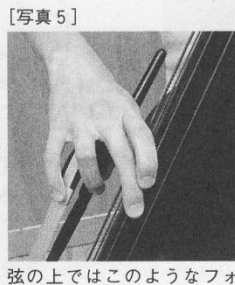
[写真2] 小指・薬指と親指の付け根で弓をはさむ



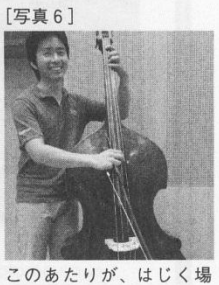
[写真3] 弦の上ではこのようなフォームになる



[写真4] 他の指はそのまま、人差し指と中指ではじく



[写真5] 弦の上ではこのようなフォームになる



[写真6] このあたりが、はじく場所の「標準」